

都市再生整備計画 事後評価シート
日立駅周辺地区

平成23年3月

茨城県日立市

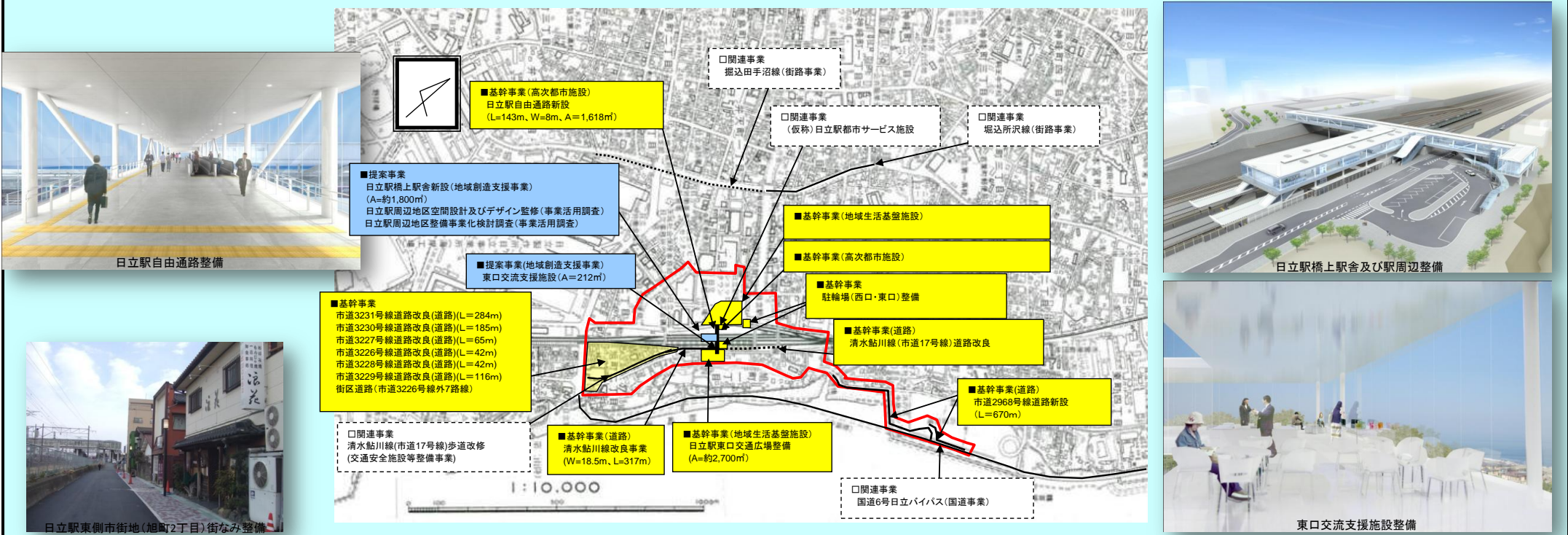
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県		市町村名	日立市		地区名	日立駅周辺地区			面積	22ha	
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	7,082百万円	国費率	0.398			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	道路：清水鮎川線 地域生活基盤施設：日立駅東口交通広場、駐輪場 高次都市施設：(仮称)日立駅都市サービス施設、日立駅自由通路								
	当初計画から削除した事業		提案事業	地域創造支援事業：日立駅橋上駅舎 事業活用調査：日立駅周辺地区空間設計及びデザイン監修、日立駅周辺地区整備事業化検討調査								
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	新たに追加した事業		基幹事業	-			-			-		
提案事業			地域創造支援事業：(仮称)日立駅都市サービス施設			事業手法が変更(公設から民間活力の活用)になったため。			都市拠点としての満足度の指標に影響するが、目標値は据え置く			
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	-		-		-					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	都市拠点としての満足度	%	12%	H17	50%	H22	37%	△	あり なし	● ○	平成24年9月
	指標2	交通結節点及び交流起点としての満足度	%	5%	H17	50%	H22	73%	○	あり なし	● ○	平成24年9月
	指標3	まちの魅力についての満足度	%	5%	H17	50%	H22	62%	○	あり なし	● ○	平成24年9月
指標4	駅周辺の賑わい再生度	%	137%	H16	150%	H22	170%	○	あり なし	● ○	平成24年9月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
その他の数値指標1	鉄道東西地区の往來のしやすさ	%	7%	H17			72%			自由通路の整備により、駅を挟んだ東西市街地の往來のしやすさが向上し、都市拠点としての魅力が高まった。	平成24年9月	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 日立駅東側の歩車共存道路と街路照明灯の整備によって、開放的で歩きやすい空間となったことから仕事帰りに気軽に立ち寄れる環境となり回遊性も向上したと考えられる。また、商店主らの間に商店街を活性化させようとする気運が醸成され、かつて花街として栄えたまちの歴史から旭花街博覧会を開催するなど様々な活性化策を考案、実施するようになった。 改札とホームの距離が短くなったこと、歩行動線がバリアフリーになったこと、雨に濡れないで駅前広場の移動ができるようになったことで、人にやさしく誰もが使いやすい日立駅になった。 海が見える駅とすることを大事にし、明るく開放的なデザインへの配慮が、日立駅の特性を活かしたまちの魅力を高めた。 日立駅及び駅周辺の交通結節点及びまちの顔としての機能強化により、文化や業務の中心となる日立駅前開発整備事業地区との連携と一体性が強まり都市拠点性の強化が図られた。 											
5)実施過程の評価	実施内容											
	モニタリング		指標4に関するモニタリング(H21.10.13人の流れ実態調査)				実施状況				今後の対応方針等	
							都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				○	
住民参加プロセス		ユニバーサルデザインに関する障害者等との検討会 市民や駅利用者へのアンケート 地元説明会(日立駅周辺住民、地権者及び旭町2丁目まちづくり協議会)				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				○		
持続的なまちづくり体制の構築		-				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				○		
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				△		

様式2-2 地区の概要

日立駅周辺地区(茨城県日立市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	目標値	従前値	目標値	従前値	目標値
大目標 都市拠点性の強化と交流人口を拡大し都市の活力を高める。 目標1 日立駅東西の一体化を図り都市拠点としての魅力を高める。 目標2 交通結節点及び交流起点としての機能強化を図る。 目標3 まちの顔(玄関口)としてのイメージ向上を図る。	都市拠点としての満足度	単位: %	12%	H17	50%	H22	37%	H22
	交通結節点及び交流起点としての満足度	単位: %	5%	H17	50%	H22	73%	H22
	まちの魅力についての満足度	単位: %	5%	H17	50%	H22	62%	H22
	駅周辺の賑わい再生度	単位: %	137%	H16	150%	H22	177%	H22
	鉄道東西地区の往來のしやすさ	単位: %	7%	H17	—	—	72%	H22



まちの課題の変化

様々な事業により茨城県北部の都市拠点としてふさわしい基盤が整備された。今後は交流人口の拡大と都市活力の向上が期待される。特に、自由通路整備による日立駅を挟んだ東西市街地の一体化、海への眺望を楽しめる東口交流支援施設整備や、景観的なデザイン性に配慮した橋上駅舎をはじめとする都市基盤の整備により、まちの魅力向上が図られた。また、日立駅の橋上化による改札とホームの移動距離短縮、自由通路及び駅舎をはじめとする交通基盤のユニバーサルデザインに配慮した整備や、東西口交通広場の整備、日立バイパスと日立駅東口を結ぶ清水鮎川線の拡幅、駐輪場の整備、アクセス道路として新設した市道2968号線によって、交通結節点としての機能強化が図られ移動のしやすさや便利さが向上した。日立駅前広場北側に隣接する地区について、更なる都市拠点性を高めるために、敷地の整序や共同化などにより土地の高度利用を図り、駅前の活気を作っていくことが課題となっている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 東口交流支援施設(カフェ)においては、レジャー・イベントなど各種情報の提供を行い、交流を活発化させる。
- 都市サービス施設においては、観光等の案内情報を適切に更新し、レジャー・イベント等の起点としての機能を維持、向上させる。
- デザイン性の高い駅舎及び自由通路並びに駅周辺の各施設については、適切な維持管理を実施し、まちの顔としてのイメージを維持する。
- 日立駅前広場北側に隣接する地区について更なる都市拠点性を高めるために、道路、公園、公共施設の整備などの必要性や、民間による土地利用需要動向を見極めながら、土地活用事業促進の検討を進める。